就労支援

若者に働くよろこびを！そんな思いを形にします

活動の概要

市民と企業と行政がパートナーシップを発揮し合う市民社会の実現を図る中で、ともに青少年の健全な育成活動に取り組むことを目的に、神戸を代表する 16 の青少年団体が中核となり、設立された NPO 法人です。

青少年の健全育成の一環として、厚生労働省委託事業の地域若者サポートステーション事業に取り組みました。神戸市と三田市と連携して地域若者サポートステーションを運営しています。「働きたいのに、もう一歩踏みだせない」「人づきあいが苦手だから就職するのが不安」「仕事をする意味がわからない」などの悩みを抱える若者とその保護者を対象に就労・自立への支援を行っています。

青少年育成活動のエキスパートや経験豊かなキャリア・コンサルタント、臨床心理士、心理カウンセラー等の多様な職員が専門相談、本人や保護者を対象にしたセミナー、就業体験事業などを開催しています。

また、兵庫県より若者しごと倶楽部サテライトを受託し、尼崎市でハローワーク等と連携を取りながら運営しています。

成果

	開設年度	相談件数	進路決定者
こうべ若者ｻﾎﾟｰﾄｽﾃｰｼｮﾝ	H18	8400 件	280 名
さんだ若者ｻﾎﾟｰﾄｽﾃｰｼｮﾝ	H20	1300 件	60 名
若者しごと倶楽部ｻﾃﾗｲﾄ	H19	3700 件	450 名

こうべ若者サポートステーションは、相談者の約 70%が進路決定、もしくは就職に向けた具体的な動きが見られるようになりました。

課題

就職に対して悩みを持っているけれども当団体の各施設に来所しにくい人もいます。'09 年度は訪問相談センターを開設し、訪問活動を行い、来所への心理的なハードルを少しでも下げられるよう努めています。

夢・抱負・今後の推進方向

就職に悩む若者が一人でも多く進路決定できるよう支援し、これからの社会を担う若者を元気づけていきたい。

ニート状態の方の支援だけではなく、ニート状態に陥ってしまう前の予防として、高校の中途退学者に対しての支援も進めて行きたいと考えています。

団体名：特定非営利活動法人 こうべユースネット
代表者氏名：若者自立・就労支援事業部　統括責任者　佐伯 隆義
事務所の所在地：神戸市中央区雲井通 5－1－2　青少年会館内
電話：０７８－２３２－１５３０　　FAX：０７８－２４２－２１６１
E-mail ：office@saposute.kobe-youthnet.jp
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://www.kobe-youthnet.jp/

ノウハウ・コツ

⑥ﾈｯﾄﾜｰｸづくり　関連団体と情報交換をする機会の確保

県や市に働きかけて、関連団体の情報交換をできるような会議を開催しています。

たとえば、神戸市域の就業に関するさまざまな課題を克服し、就業環境を改善するため、経済界、労働界、教育界、ＮＰＯ、行政などの各階で構成されている「神戸ワーク・ネットワーク」との連携事業を実施したり、関係機関が集うひょうごニート支援ネットワーク会議において、若年無業者に対する就労までのきめ細やかな総合支援の検討をしたりと、ニート状態の若者を支援するための情報交換を行っています。

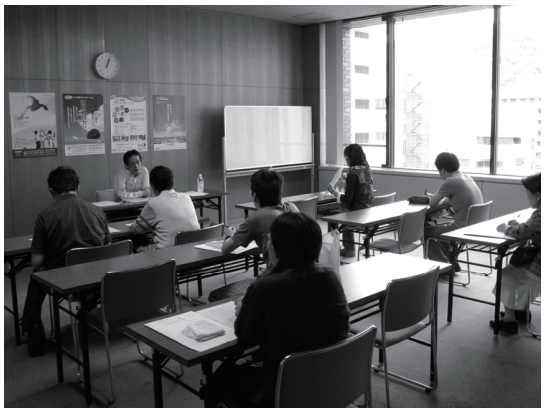
⑦行政の活用　行政等と接する機会を有効に活用

県・市議会議員や国会議員へ事業の説明を行い、セーフティネットとして必要な制度であることについて社会的認知を高める活動を行いました。また、神戸市各区の福祉事務所職員の研修・視察を多数受け入れ、生活保護受給家庭の若者への就労支援のあり方について検討を重ねています。

⑨活動の展開　支援内容を充実

‘09 年度モデル事業として受託した訪問支援事業では支援方法を確立し、確かな手ごたえを掴みました。これまでの活動で確立した支援体制や関係機関とのネットワーク・行政との連携を基に、来年度は高校中退者等のアウトリーチなどネットワークの活用を要する新たな支援事業に取り組む予定です。

こうべサポステ相談コーナー



本人と保護者を対象とした就労支援相談会

ひとことメッセージ

こうべユースネットでは、各施設にブログを利用し、お知らせや活動報告を随時掲載しています。

○こうべ若者サポートステーション　http://kobe-saposute.sblo.jp/
○さんだ若者サポートステーション　http://saposute.sblo.jp/
○若者しごと倶楽部サテライト阪神　http://satelite-hanshin.sblo.jp/

また、月１回神戸市全戸に配布される神戸市の広報誌である「広報こうべ」を利用し、各事業の広報を行っています。

助成金については、助成団体要覧―民間助成金ガイドを参照し、情報収集することをお勧めします。また、ひょうごボランタリープラザ等のホームページで随時情報が公開されていますので、幅広くチェックしてください。

就労支援

ひきこもりの当事者と親への支援

活動の概要

ひきこもり問題が今や深刻化し、その数は推定で 100 万とも言われ、高齢化、高学歴化、長期化の様相にあります。こうした引きこもり当事者や、その親を支援するため、2010 年「ISIS 神戸」を立ち上げました。

主な活動は、①ひきこもり青少年をもつ親や家族支援のための家族会の開催　②当事者支援のための居場所づくり　③ひきこもり問題に関する啓蒙と社会的理解を促進するための講演会　④就労支援　⑤家族や当事者へのカウンセリング　です。

特に就労支援は道筋が重要です。ひきこもっている人に対する就労支援は、まず家庭から居場所に出てくる支援、これができて次に、居場所での仲間づくり、対人関係の力を育てる支援、その上で、可能な部分就労を続け、ここから本格就労へ導入するという行程です。

成果

①居場所でパソコン操作ができるようになった当事者たちが、パソコン関係の仕事に就いたこと。②居場所でコミュニケーション能力に自信を得、就職できたこと。③親・家族が同じ悩みを持つ家族との交流によってまず辛い心が癒されたこと。④居場所に出てくる当事者が時間をかけて仲間の中に入り、人との関わりができるようになったこと。

パソコン教室の実施風景

課題

活動を有効に進めていくためには何よりも資金が必要。家族からの出資金では例会の維持が精一杯。カウンセラーもボランティアに頼っており､活動の場も極めて限られます。

ひきこもり支援が前進するため、地域の支援者が一人でも増えること。

ひきこもりの青少年を抱えながら NPO や居場所に支援を求めてこない親子にどうアプローチするか。

夢・抱負・今後の推進方向

苦悩する当事者や親が当会の活動に参加して、希望と元気を取り戻し、当事者が一人でも多く社会や希望の場に飛び立ってほしい。

活動を多様化し、メニューも体験活動を中心にバリエーションをもたせるとともに、当事者の居場所を拡大するなど支援を充実し、当事者が人と関わることに喜びを感じ、それを力にして逞しく社会に旅立ってほしい。

団体名：特定非営利活動法人情報センターＩＳＩＳ神戸
（integrated support for independence-start）
氏名：小林 剛（兵庫県立神出学園長）
事務所の所在地：兵庫県神戸市中央区吾妻通４－１－６　神戸まちづくり研究所
電話：０７８－２３２－３９２３　　FAX：０７８－２３２－３９２３
E-mail：staff@isis-kobe.net
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://www.isis-kobe.net/

ノウハウ・コツ

⑨活動の展開　徹底的に親・当事者に寄り添う

これまでの活動経験から以下の知見が得られました。

〈親支援〉

ひきこもり当事者を持つ親への支援は、親の苦悩に寄り添うことが基本です。どんな親の悩みや苦しみにも徹底的に聞いて共感していくこと。

〈当事者支援〉

対人関係の不安を受け止めること。そのためには、当事者の「ありのまま」を 100%受け入れ、真正面から向き合う。当事者の持つ関心や興味に寄り添ってコミュニケーションを始めること。

〈活動の工夫〉

- 活動の中に食べる楽しみを盛り込む
- 仲間と共に出かける。体験的な楽しいメニューを豊富に用意する。
- 親や当事者向きの情報をマメに発信する

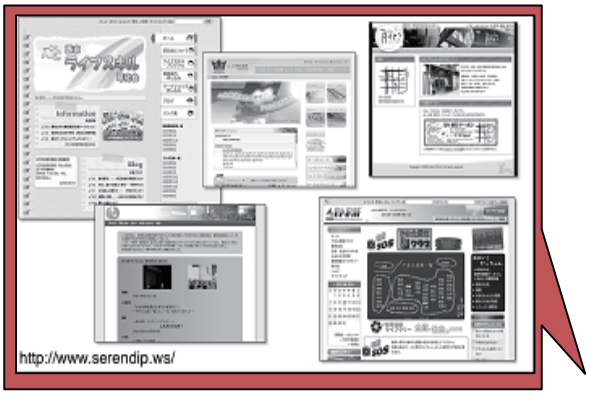
⑨活動の展開　活動が広がるきっかけ

活動が広がるきっかけとなるのは、次のような時です。

(1) 親の会では、自分の苦悩や重いが充分受け入れられる充実感を持ったとき、あるいは理解された時

(2) 当事者支援においては、受け入れられることと、何かしらの技能が身についた実感が持てたとき

(3) 情報（通信）が頻繁に届けられた時



今、ホームページ制作を手懸けています。ひきこもり体験の発表会で自己紹介し、ある NPO 団体のホームページ制作の依頼を受けたのが始まりです。

人と話すのが苦手だった彼、ISIS の仲間と出会い、居場所に通い、ハイキングなどの行事に参加する中でコミュニケーションがとれる様になりました。

ひとことメッセージ

ひきこもりの親も当事者も、まず電話・FAX・メールなどで勇気をもって「ISIS 神戸」に一声上げましょう。そのためにホームページを開いてみること。ここから何かが始まります。

経済活動の活性化

都会と田舎の交流（観光を視野の街づくり）

活動の概要

尼崎市未来協会が“残そう１００遺産”を選択し、その活用方法をまとめるため市民研究員が公募されました。市民研究員の解散後、そのメンバーがその研究成果を観光に活用したいと、また、阪神南地域ビジョン委員として、ものや人の交流に取り組んできた人たちがその活動の成果を観光に生かしたいと考えていました。両メンバーが中心となり、都会と田舎の「もの、人の交流」を促進し、観光でまちを元気にしたいと活動を続けています。

丹波市の「おさん茂兵衛ＤＥたんば実行委員会」と協力してJR福知山線の尼崎から篠山まで観光列車「おさん茂兵衛列車」を走らせたり、ＪＲ尼崎駅周辺が「緑遊新都心」として再開発をしていた時には、駅北側を市花ハナミズキで花のまちにしてはどうかと「花波計画」を提案し、老人会と協賛でフォーラムを実施しました。また、尼崎市は近松門左衛門をまちづくりの柱にすえているので、歌舞伎カレンダー展の開催や川柳の一般公募に協力してきました。観光の視点からおみやげ品の開発にも力を入れています。

また、丹波市青垣町との交流を深め、町に自生する笹を七夕祭りの時に尼崎市の小学生に贈ってもらうなどの活動を支援しています。

成果

丹波市や青垣町との交流が深まっています。

大阪府立大学や近畿大学からどこかワサビの生産に適したところはないかと協力依頼があり、交流のあった青垣町を紹介したところ、町と大学が協働してワサビやアマゴで青垣町のまちおこしをしようと事業化の話が進んでいます。

課題

若い人材と資金力の確保です。活動資金の得られる運営をしていくこと。

夢・抱負・今後の推進方向

都会と田舎の交流事業の一環として、福知山線で観光弁当（都会と田舎の交流弁当）を開発・販売したり、地域の特産品の販売をしたい。

尼崎の地ビールとして尼崎百品目に選定されている「はなみずきビール」の工場を青垣町に建設したい。

団体名：ＨＡＮＳＨＩＮ２１街づくりの会
氏名：会長　北　和子
事務所の所在地：尼崎市潮江１－１１－１（コミュニティサロンはなみずき）
電話：　０６－６４９３－８７１８　FAX：　０６－６４９３－８７１８
E-mail：hanamizuki@castle.ocn.ne.jp
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://www5.ocn.ne.jp/~ama21/

ノウハウ・コツ

③活動場所　活動拠点は便利な場所に

当会の活動拠点は、尼崎市の新しい玄関口であるＪＲ尼崎駅のすぐ北側にあるコミュニティ喫茶「コミュニティサロンはなみずき」の中にあります。そのため、いろいろな人が立ち寄るので、さまざまな情報が集まってき、また、色々な才能を持った人が来るので、相談もできます。

⑥ﾈｯﾄﾜｰｸづくり　各メンバーが複数の団体に属することが会の充実につながる

当会のメンバーは、老人会の会長、銀行のＯＢ、元公務員、元小学校長等です。それぞれ知識や技術をもっています。また、それぞれが教会や校長会など別の活動団体にも属しています。個別にそれぞれが多忙な毎日を送っていますが、生活交流のためのイベント等を開催する時には、それぞれのつながりを生かして、事業の推進に協力してくれるので、事業の成功につながっています。

⑥ﾈｯﾄﾜｰｸづくり　思いの深さが人を集める

このような活動をしたいや、こういう地域にしたいという活動の思いを出会った人に伝えるようにしています。また、声がかかったときには必ず手伝いに行きます。このようにしてネットワークが広がりました。何か成し遂げようとすると人が一番大事です。思いが深ければ、それをかなえてくれる人が自然と集まってきます。

ひとことメッセージ

常に提案型で活動をしています。一つの地域資源が次々とつながり、新たな取り組みを生み出していきます。

尼崎市生まれの国学者契沖（けいちゅう）を顕彰するため、尼崎市教育委員会と契沖研究会が協賛して小・中・高校生から大人までを対象に短歌を募集しており、当会も協力しています。毎年増え続け、約 8,000 件の短歌が尼崎市内外から届きます。短歌日本一の街・尼崎をめざしたいと思っています。

経済活動の活性化

事務局代行機能をもった市民活動中間支援交流サロン

活動の概要

コムサロンとはコミュニティサロン・コミュニケーションサロンの略称で、交流の場の提供と社会貢献活動を目標とした市民活動団体の中間支援を目的としています。

自由な交流の場から生まれた、すばらしいアイデアも、それが、地域性を持てば持つほど、ひとりでは実現が難しくなってきます。それでもなんとか実現したいという人に交流の場（サロン）を提供したり、ネットワークで活動資源のマッチングをしたり、事務局としての役割を担うことにより活動の支援をしています。

播磨地方を中心とした市民や会社の１６５の個人・団体で、地域資源を再発見することや食文化による地域おこしをしています。

当会が事務局として関わった実績のある社会貢献団体
- ○西播磨の食のイベントである「播磨うまいもん祭り」の実践団体の「播磨うまいもん会」
- ○今は廃れてしまった播磨の著名な漆器文化の書写塗の復活伝承を提唱する「書写塗伝承協会」
- ○5 月 13 日竹酔日筍の丸かじりイベントの提唱をしている「食文化研究会」
- ○2 月 2 日を夫婦の日にしようと活動している実行委員会「2 月 2 日夫婦感謝の日実行委員会」
- ○　播磨の名物料理を提言している「播磨おとき料理振興会」
- ○　姫路地方の食の団体ネットワーク「姫路食文化協会」
- ○　名所にて地産品のPRの場づくり「亀山御坊朝市実行委員会」
- ○　地域ブランドづくり「姫路おでん協同組合」 など

成果

さまざまな活動や名物の創出のほか、市民のアイデアを実現してきました。

- ・姫路おでん、姫路食博、太市の筍
- ・書写塗、播州弁グッズ
- ・2月2日夫婦感謝の日、亀山御坊楽市楽座
- ・姫路城のお姫様ボランティア、門番の登場

播州弁川柳マンガ

課題

事業が拡大し、それぞれのスタッフが抱える仕事の量が多くなってきたので、スタッフ間の連携をとり、少しでもスムーズな処理ができるように態勢を整える必要があります。

１９年間活動してきて、初期メンバーも高齢化してきましたが、若者向けの活動や新規事業が増えるに伴い、若いメンバーも増え、今後の事業継続のためにもスタッフのスキルアップの取り組みが必要となってきました。

門番の登場

夢・抱負・今後の推進方向

市民や団体の生きがいづくりのサポートができるネットワークをさらに構築し、子どもたちにとっても、未来に夢を語り合い実現できるような魅力ある地域をつくってゆきたい。

中間支援としての機能の充実、コミュニティビジネス団体としての基盤の充実を図っていきます。

団体名：特定非営利活動法人コムサロン２１
氏名：理事長　前川　裕司（事務局）名倉けい子
事務所の所在地：姫路市下寺町４３姫路商工会議所新館４階
電話：　０７９－２２４－８８０３　　FAX：０７９－２２４－１５５３
E-mail：info@com21.or.jp　　ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://www.com21.or.jp

ノウハウ・コツ

⑤広報・情報共有　生きた情報発信

団体の活動内容・報告など、情報はどんどん変わっているにもかかわらず、発信する情報内容が古いままでは、いくら良い活動をしていても、伝わっていきません。ホームページやブログ、機関紙などで、できるだけタイムリーに生きた情報を発信するようにする。そうすることで、それを見た他団体から事業や講演などの声がかかり、活動が広がるようになります。

ただ、反対にホームページ等で載せた情報は、自分たちからすれば１部の情報であっても、外部から見れば「この団体はこういう団体である」という団体を表すものになるので、情報掲載には細心の注意が必要です。

⑥ネットワークづくり　ネットワークづくりがすべての活動の始まり

活動するときに、ヒト、モノ、カネが無いと困っていることが多いけれど、世の中にその資源はすべてどこかに存在しています。要は、自分やその団体が、その資源につながっていないのが、困っている要因なのです。

幅広く、信頼関係のあるネットワークづくりこそが、すべての活動の成功の要因になります。

自分にとっての損得のネットワークではなく、相手にとって喜んでいただけるネットワークづくりが重要で、それは、いつかは自分に還ってきます。

⑨活動の展開　アイデアを実現するには

いろいろなアイデアは、自分が描けても、相手に伝わらないと意味がないし、また、相手が賛同し、動いてくれることによって広がり、実現につながるものです。

相手に動いていただくための要素は、

① 社会貢献として、その団体活動の評価が得られる。
② 相手の企業や団体が、参画によって活性化する。
③ 参画するメリットが、その団体自身の構成員にも伝わる。

いろいろな活動において、それぞれ関係する団体が動きやすいように、コーディネイト役を担えるどうかが、成功のカギといえます。

姫路城のお姫様ボランティア

ひとことメッセージ

ネットワークづくりが大切ですが、相手にとっての自分自身の価値観を高める活動も重要です。

ボランティアや地域のための活動は、そういった意味では重要な活動です。

経済活動の活性化

楽しく・美味しく地域の活性化をめざす

活動の概要

県下各地の「ご当地グルメ」を切り口に地域活性化をめざす団体のネットワークです。過疎化・高齢化によるまちの衰退を何とかしようとしていた佐用町と、震災からの復興をめざす神戸長田区との交流がきっかけとなって始まり、その活動に他の地域が参加するようになりました。

’08 年 10 月に団体同士が緩やかに連携して、より効率的にイベント等を通して地域や各団体の取り組みを PR しようと当協議会を結成しました。現在、県内全域から 11 地区が参加しています

「ふれあいの祭典全県フェスティバル」(事務局：兵庫県)と同時開催している「ご当地グルメサミット」を当協議会の核となる行事として実施するとともに、参加団体同士が交流・連携することで、各地での活動の方法・成果・課題等の情報を共有し、お互いの活動がよりよいものになることをめざしています。

成果

当初、’05 年に佐用町で 4 地区が参加して開催しました。以降毎年、柏原町、高砂市、淡路市、豊岡市で順に開催し、参加団体も 11 団体となりました。

’08 年の淡路市開催から「ふれあいの祭典全県フェスティバル」と同時開催することとし、合わせて当協議会を設立しました。このようにネットワークを構築したことで、外部からも見えやすくなり、参加希望の地区から問い合わせも増え、イベントへの参加依頼も多く寄せられるようになりました。

「ふれあいの祭典」でご当地グルメサミットを同時開催

課題

参加団体の増加にともない、事務局の負担が増えており、どう対応するかが課題です

夢・抱負・今後の推進方向

この事業が盛大になることはもちろんのことですが、参加している各地の活性化に役立つことをめざしています。兵庫県内のネットワークから全国で運営している B-1 グランプリ（愛 B リーグ）と連携して、さらに活動地域を広げて行きたいと考えています。

団体名：兵庫県ご当地グルメ連絡協議会
氏名：会長　千種和英
事務所の所在地：佐用郡佐用町佐用３０１８－６
電話：０７９０－８２－２３０５　　FAX：０７９０－８２－３３２１
E-mail：　chigusa@maple.ocn.ne.jp

ノウハウ・コツ

⑤広報・情報共有　同じ課題の共有から解決策を発見

ご当地グルメに着目した地域活性化そのものに注目度が高く、また、全国各地で同じような取り組みが行われているため、マスコミに取り上げられる機会が多く、効果的な活動となっています。

各団体の抱える課題は共通点が多く、その情報を共有することにより課題解決に向けての対策が見えてくるという利点があります。

⑦行政の活用　お互いのメリットを活かした行政とのパートナーシップ

第３回までは開催地単独での開催のため、事業費の調達に苦労しました。

当協議会立ち上げ初年度である‘09 年度は、ふれあいの祭典県民提案事業として採択され、当協議会の立ち上げからイベントの実施、来年へのつなぎといった軌道にのせるまでの過程において、その補助金を活用することで参加団体の負担が軽くなり、スムーズに進めることができました。

行政側は「ご当地グルメサミット」と同時開催することで、民との協働により賑わいが創出できるといったメリットがあります。互いのメリットをうまく活かす形で対等な連携をとれば、お互いのよい部分を出しあえると思います。

⑥ﾈｯﾄﾜｰｸづくり　参加団体独自の活動を尊重した緩やかな連携

当協議会は、地域づくり団体から観光協会、商工会など多様な団体から構成されています。普段は、それぞれが各地域において地域活性化等の活動しており、イベントなどへの参加は、当協議会の呼びかけに各団体がそれぞれの判断で参加するかどうか決めるといったスタンスをとっています。このように緩やかな連携をとることで、それぞれ独自の活動を尊重しつつ、情報の共有化や共通の広報媒体の制作、無理のないイベントへの参加などの活動を続けることができ、継続性・発展性のある組織になると考えます。

総会

シカコロッケを試食

ひとことメッセージ

活動のヒントも課題解決も、メンバーが動くことによって見えてきます。

いろいろな事業に参加し、多くの人と会い、話してみてください。みなさん同じような苦労をされています。話すことにより何か違ったものが見えてきます。また多くの情報を得ることができます。それが大きな財産となって活かされていくと思います。

経済活動の活性化

みんなで元気な地域づくり

活動の概要

久斗山地区は、栃の実、ヤマブキ、サンショウ、タケノコ、葉わさびなど多くの農産物に恵まれています。

それら地元農産物を使った特産品を開発・製造販売を行うため、農産加工組合を設立し、県民交流広場事業により、廃校となった小学校を農産加工施設として整備しました。

古くから久斗山の家庭で作られていた栃もちのほか、佃煮や漬物を製造し、「久斗山の味」として県内外のイベント等に出店し販売、ＰＲを行っています。

調理室に集まって作業や雑談をすることで、地域コミュニティの活性化、また、販売収入があることにより住民の生きがいづくりと持続的な活動展開につながっています。

成果

多くのイベントに参加して栃もちや佃煮、漬物等の久斗山の特産品を製造販売出来るようになりました。その結果、年々販売量が増加したことで、地区の高齢者からの材料提供も増え、地産地消につながっています。

課題

もっと多くの人に参加していただき、指導者になって頂く事や、みんなで考えて頂き、みんなで指導出来るよう頑張りたいです。また、指導者研修会等も開催したいです。

夢・抱負・今後の推進方向

交流拠点（廃校後、県民交流広場事業により整備）を最大限に使用して、交流人の受け入れや都市パートナー事業等を取り組みたいと考えています。

そのために、地域みんなで活動を広め、特産品を多く販売することにより、活動を活発にさせ、また、体験教室等を通して、交流人口を増やし、訪れてみたい地域にしたいと思っています。

団体名：久斗山農産加工組合
氏名：組合長　中村　寿弘
事務所の所在地：兵庫県美方郡新温泉町久斗山１４２０
電話：０７９６－８５－００３０　　FAX：０７９６－８５－００３０

ノウハウ・コツ

②活動資金　継続した活動を目的とした資金の確保

特産品の販路の拡大、売上金の積立により、活動が継続できるよう工夫しています。
また、体験教室等の開催では、参加者より参加料を徴収しています。特に草木染めなど参加者が持ち帰るものについては、自己負担をお願いしています。
特産物の販路の拡大に努めるとともに、事業参加費等徴収するなど、コミュニティビジネスとしての展開を試みています。

③活動場所　廃校舎を県民交流広場事業で活性化

県民交流広場事業を活用し廃校になった小学校を農産加工施設として整備しました。調理室のほか、空き教室にテーブルや椅子、畳などを整備したことで、地区公民館活動と連携して多くの講座が開催されています。
また、秋の運動会、文化祭も盛大に開催されるようになりました。

⑦行政の活用　行政との連携

農業改良普及センターや町役場、教育委員会などに指導協力を頂いて、子どもから高齢者までの体験教室を多く実施していくよう努めています。

ひとことメッセージ

最近では、県民交流広場事業や村づくり、地域おこしの視察に当地区に来られる自治区等があり、交流広場事業の成果を発表しています。小さな旧久斗山小学校区、久斗山地区の活動でありますが、参考になれば、今後も視察を受け入れて行きたいと思います。

就労支援

障害者の自立、就労を支援

活動の概要

平成 19 年に地元の中川中学校からトライやる・ウィークで障害児を受け入れてもらえないかと経営する会社に相談があり、受け入れたことがきっかけとなり、会社経営者、主婦、有志、県職員 OB らがメンバーとなって障害者の就業支援に取り組んでいます。

ハローワーク、特別支援学校、県立や国立の障害者職業訓練校、作業所などと協力しながら、障害者の職場実習等に取り組んでいます。

また、障害者セミナーや高齢者大学での講演、障害者(児)とのふれあい活動、淡路文化会館で島内の障害者の美術展(平成 21 年 5 月 26 日～6 月 8 日)を実施しました。

成果

講演や美術展の開催を通じて、今まで知的障害者にまったく無関心だった人々に広く障害について理解してもらうきっかけになりました。

また、平成 20 年度は地元の特別支援学校の卒業生 3 名が就職しましたが、うち 2 名の就労支援を当 NPO が関わることができました。

課題

活動する費用等はメンバーの会費、講演会で得られた資金しかなく、持ち出しが続いています。また、活動の幅が年々広がり、主に行動するメンバーが限られるので、メンバーの拡充と活動のテーマをある程度絞っていこうと考えています。

夢・抱負・今後の推進方向

夢は大きく、淡路島を世界的なユニバーサル島にしたいと考えています。特に、一次産業と障害者の自立、福祉の融合を考え、自助・共助・公助の精神で関係機関と協力して取り組むつもりです。

団体名： NPO 法人ひょうご知的障害者自立就業支援ネット 協生
氏名：代表者　柿原 孝司
事務所の所在地：洲本市中川原町厚浜 725-1
電話：０７９９－２８－０３８８　　FAX：０７９９－２８－０３９８

ノウハウ・コツ

⑨活動の展開　目に見える形にする

メンバーが経営するカフェでは障害者の職場体験実習を受け入れ、4名の正規雇用をしています。お客としてよくカフェに来ていたホテルの料理長には、実際に障害者が働いているところを見、障害者と会話をする中で、ホテルでの職場体験実習の受け入れを承諾し、その後、就職の受け入れもしていただきました。

また、カフェ内に障害者の描いた絵画やさおり折りの作品を展示することで、県から美術展を開催しないかとの誘いを受け、作品展示のほか、障害者が受け付けや作品案内をしたところ、来場者から好評で、来年度以降も継続して開催することになりました。

就労を進めるためには、障害者をまず理解してもらわなければなりませんが、そのためには実際に就労や活動している様子を目にしてもらうことが効果的です。

⑦行政の活用　行政の縦糸を横につないでいく

障害者就労支援活動では多くの行政職員と出会い、提案や支援もあり、多くのヒントを得ることができました。行政との交流は地域づくり活動を行うにあたって、もっとも必要な条件の１つと考えます。

ただ行政の施策・事業は縦割り（福祉、就労、教育など）になっているので、NPOが横にネットワークをつないでいくという役割を果たすことでうまく事業が展開できます。福祉、就労、教育など多面的に組み合わせた視点から行政に具体的な提案をし、障害者の就労が進むようにしています。

⑥ﾈｯﾄﾜｰｸづくり　就労のネックとなっている部分を埋めていく

職場体験実習や就職の受け入れ先（企業等）の受け入れ態勢をどうするかのマニュアルがないので、どうすればよいかのアドバイスに企業等に当 NPO のメンバーが出向いたり、専門家派遣をハローワークに依頼しています。

広く情報の把握に努め、必要な情報を必要とする人に届けるなど、障害者の就労を進めるうえで、ネックとなっているところを一つひとつ埋めていくことが効果的です。

ひとことメッセージ

助成金はもらわないスタンスにしています。そうすることで行政等に言いたいことが言えます。